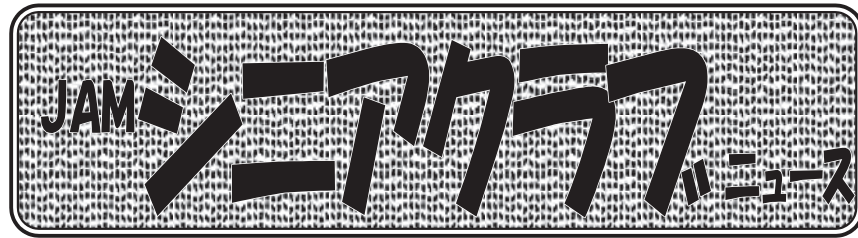


地域組織の確立で  
会員間の絆の促進を



第162号

発行日 2021年6月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

年金勉強会  
幹事会開催

## 活動方針と組織拡大に補強意見（幹事会）

### 年金制度の改正点と検討規定に対する 連合とJAMの考え方を学習

5月25日、シニアクラブ「第2回幹事会」をリモートで開催した。5月末に期限を迎える「緊急事態宣言を再延長する調整」に入ったとの報道がされるなど相変らず、先が見えないコロナウイルスの状況が続く時期に直面での会議開催は無理と判断して切り替えた。幹事会では新年度活動方針、組織対策委員会報告、定期総会の開催、結成20周年行事について討議した。幹事会での討議を受けて今後、事務局会議や三役会で修正し、7月の第3回幹事会で確認することになる。

幹事会に先立ちシニアある年金勉強会を開催し「年金制度の改正ポイントと連合・JAMの考え方」と題して小

林妙総合政策グループ長から講演を受けた。2019年に、金融ワーキングGrの報告書に掲載された老後2000万円問題に関する内容が当時「いままらそんなこと言われても」など各方面で様々な議論を呼んだ。

年金はシニア層だけではなく若年層や中堅層の課題でもある。現退が改正内容に注目しながら制度を正しく理解し連携した大きなうねりをつくって行くことが大事であることから実施したもの。2020年に成立した年金制度改正の内容と国会審議を経て、追加された検討規定に対する現役の考えを中心に説明を受け理解を深めた。

休憩を挟んだ幹事会では自宅から参加の豊泉副会長の挨拶で開会。大山会長は、大きく下落したGDP速報値にふれ「経済へのダメージが明らかとなった。コロナの抑え込みに全力をあげるべき。経済の安定がなければオリンピックの開催もない」と述べ、コロナ対策は「ワクチン接種と水際での検査を徹底することが重要」と指摘した。そのうえで、医療の逼迫や過重労働が指摘されている中で医療再編を進めようとする政府の姿勢を批判、「介護と医療問題をあわせどうするか議論していきたい」と語った。また、問題点が多いと指摘されている「入管法」は「国会審議しないことになったがJAMや在日ビルマ労組の人達と連携していく」との姿勢を示した。最後に「コロナで貧困格差が明確になったいま生活を守り、孫の時代も持続可能な社会をつくるためにしっかりと議論していく」と挨拶した。

東日本大震災で福島第一原子力発電所の事故（原発事故）が発生して10年が経過しましたが、原発事故の恐ろしさを忘れちゃっている日本人の多い事に驚かされる。

ドイツは、自国での事故ではない福島原発事故を教訓に、原発ゼロ政策を打ち出し実施を始めた。

我が国と言えは、原発のある地域の首長が、さまざまに原発マネーなどに影響を受け、原発の再稼働に同意したり、原発の新設を歓迎する動きが、温室効果ガス排出ゼロ政策の裏で出て

## 原発に依存しない社会を目指して

### 再生可能エネルギーで賄うべき

千葉シニアクラブ会長 畑山 和宏



主張

来ており、誰が言い出したか知らないが「電力エネルギーの20%は原

質の事も考えずに脱炭素だけでエネルギー源にしようとするのは福島原発事故の教訓、恐ろしさを忘れた者か、原発を廃止することが都合の悪い者が考えることのように思われる。

記したが、原発に関連した仕事をしている企業は原発ゼロの方向を考えると、又原発に頼っている地域は原発以外の産業を考えて、豊かな企業、豊かな地域を作り、平和な日本を作りましょう。

再生可能エネルギーは、太陽光と風力が盛んに宣伝されるが、我が国は水質源が豊富であるので水力をもっと活用すべきであり、地熱エネルギー等も活用できると考える。世界で三番目に原発事故を起こした国、そして世界で唯一原爆被爆国として、原子力エネルギーに頼らない社会を実現するために再度、原発事故、原子爆弾の恐ろしさを思い起こそう。

前記の主張でも川野副書記長は、春闘総括議論にふれ「賃金維持分のみで単組が増えるなど厳しい取り組みを余儀なくされた、

（裏面に続く）

「一時金を含めると大手と中小の差が拡大した」と報告。また、次期参議院選挙の議案をJAM中央委員会に提案するが「基幹労連の候補者が絞れた。JAMは基幹労連の支援にまわる」と挨拶した。

その後、12月8日から5月25日までの活動とシニア共済報告を確認、役員選考委員会中間報告では退任役員1名の補充と女性幹事の増員が報告された。

協議事項では①2022年度活動方針②組織対策委員会検討報告③定期総会の開催④結成20周年記念行事⑤会費徴収について意見交換。補強意見として①配偶者など家族会員を含めた会員拡大の工夫②拡大活動に使う新たな器材の作成③組織拡大活動の経験交流の実施④事例集作成における単組ヒアリング内容⑤儀式サービスなどに意見がだされた。これらの補強意見を三役会議、事務局で整理し7月の幹事会討議を経て総会議案として確認して行く日程を確認した。

**シニア共済 給付件数と額ともに減少する**  
**シニア共 加入者数と口数は僅かに増加**

シニア共済の加入と給付状況についての報告資料が「第2回幹事会」に提出された。

対象期間は2020年7月1日から21年5月1日現在までの11カ月間のデータになる。例年、2月にシニア三役とJAM共済担当者との間でシニア共済の加入者や給付件数、給付金の推移などを分析した資料を基に、シニア共済の現状と課題について意見交換する場を設けて制度改正につなげてきた。今年も残念ながらコロナの影響もあって開催することができなかった。

資料によると、5月1日現在のシニア共済の総加入者数は1万997人。これは期首比で292人増え、口数では1285口数の増となった。タイプ別では総合と入院重視の比率3対1に大きな変化は見られない。

シニア共済への加入

推移をみると、単組毎の離職時期により3・9月に山がみられるが新規加入者と同時に脱退者も一定数増えおり、結果的に新規加入者数の伸びの鈍化となっている。共済からの脱退者もここ数年増え続け、その事由は不明だが給付件数の推移から死亡による脱退が増えていることが推定される。また給付は、1529件、総額1億8699万円となつて件数と額ともに前年同期比で減少がみられた。特に病气入院による給付の減少が顕著で前年同期比81%。新型コロナウイルスの感染拡大という大きな環境の変化がどの様に影響したのかはわからないが、シニア組織の柱として定着した制度をより良いものとしていくためにも現役とともに丁寧な移行時の加入促進活動や制度内容の見直しを進めていくことが求められる。

加入状況と推移

2021.05.01現在

	出身共済	2021年05月01日現在			2020年7月01日現在			増減		
		人数	総合口数	入院重視口数	人数	総合口数	入院重視口数	人数	総合口数	入院重視口数
内訳	ハート共済	366	576	294	364	573	294	2	3	0
	ふれあい共済	7,681	23984	6060	7388	23081	5718	293	903	342
	個人生命・医療	2,505	5221	3586	2492	5197	3538	13	24	48
	移行・特別処置	445	668	376	461	697	382	-16	-29	-6
	合計数	10,997	30,449	10,316	10,705	29,548	9,932	292	901	384

	2020年						2021年						
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
加入人数	10,705	10,736	10,868	10,793	10,794	10,782	10,736	10,726	11,031	10,991	10,997		
新規		57	140	23	13	4	15	13	309	19	25		
脱退		26	8	98	12	16	61	23	4	59	19		
前月との増減		31	132	-75	1	-12	-46	-10	305	-40	6		
2020年7月期首との比較													292

給付状況

2020年07月01日～2021年04月30日

共済名	給付項目	件数	給付金額 円	年間支出予算 円	本年度 予算対比 %	前年度 同月比 %	前年度同月実績	
							件数	給付金額 円
シニア共済	死亡・障害1級	0	0	332,000,000	56.3	0.0	0	0
	交通事故 死亡	0	0			0.0	0	0
	不慮事故 死亡	0	0			0.0	0	0
	病气 死亡	82	92,000,000			95.3	95	96,500,000
	小計	2	500,000			11.1	2	4,500,000
	災害	65	8,403,000			91.6	97	101,000,000
	入院	1,380	86,090,000			0.0	0	0
	病气	1,445	94,493,000			95.3	83	8,813,500
	小計	1,445	94,493,000			81.3	1,557	105,833,500
	シニア共済 計	1,529	188,993,000			82.4	1,620	114,647,000